

2019年度の活動報告

総務

(1) 会員数

- ・ 2019年度は入会者5名、退会者6名であった。年度末会員数は前年度より1名減の63名である。そのうち、女性会員が13名、35歳未満の若手会員が7名である。
- ・ 入会者 5名
 - 北丸 薫子氏 (4月10日付)
 - Eliud KIPROP氏 (6月18日付)
 - 玉置 佳一氏 (1月17日付)
 - 重本 彰子氏 (5月23日付)
 - 小川 亮氏 (9月14日付)
- ・ 退会者 6名
 - 松本 洋氏 (4月1日付)
 - 水上 博雅氏 (3月31日付)
 - 村上 裕公氏 (3月31日付)
 - 尾村 敬二氏 (3月31日付)
 - 小沼 久美子氏 (3月31日付)
 - 河野 善彦氏 (3月31日付)

(2) 年会費収入

- ・ 会員63名のうち、2名は2019年度の年会費を2018年度に前納した。他の1名は2020年度の年会費を2019年度に前納した。
- ・ 2018年度の若手会員のうち、1名は2019年度に一般会員となった。
- ・ 2019年度の年会費収入は481,000円と前年度比28,500円の減収であった。その理由として2018年度の前納(2名)、納入者数の減少(5名)などが挙げられる。

(3) 会員紹介

- ・ SRID ジャーナルの「会員紹介」欄において、第17号に香川重善会員、松田教男会員、第18号に湊直信会員、西川壮太郎会員が紹介された。
- ・ SRID Newsletterの「新会員紹介」では、6月号にDickson KINDOLE会員、8月号に北丸薫子会員が登場した。

全体行事

(1) 第46回年次総会

2019年4月17日(水) 18:00～21:00 @JICA 市谷ビル 2階大会議室で開催し、会員16名が出席した。2018年度の活動報告、収支決算、及び2019年度の活動計画案、予算案が承認された。議事録はSRID Newsletter No.492 (2019年5月号)に掲載された。

(2) 新年会

2020年1月27日(月)に東京理科大「理窓会倶楽部」サロンにて恒例の新年会を開催した。参加者は11名と、新会員の参加がなく寂しかったが、小久保、加藤、山下の3会員

が女性ボーカル・グループを結成して「サントワマミー」を歌い、喝采を博した。また幹事が持ち寄った賞品でビンゴを楽しんだ。新年会報告をSRID Newsletter No.499に掲載した。

幹事会

第1回幹事会

5月21日(火) 18:00～20:00 @飯田橋「理窓会倶楽部」サロン。第2回SRIDフォーラムへのスカイプによる参加、旧学生部OB及びABE留学生の参加勧誘等について協議した他、SRIDホームページの隔月更新を山岡幹事に依頼した(8名出席、1名スカイプ参加)。

第2回幹事会

6月11日(火)18:00～18:45 @JICA市ヶ谷ビル2階ホール。第2回SRIDフォーラムの企画案、会員へのアンケート調査等について協議した(9名出席、1名スカイプ参加)。

第3回幹事会

7月23日(火) 18:00～18:45 @JICA市ヶ谷ビル2階大会議室。フォーラムに関するアンケート調査の回答、企画案等について協議し、パネリストへの打診を決めた(10名出席)。

第4回幹事会

9月10日(火)18:00～18:45@JICA市ヶ谷ビル2階ホール。事前にスカイプの接続テストを行ない、パネリストにプレゼン概要、及びパネル資料の提出を依頼する(6名出席)。

第5回幹事会

10月8日(火) 18:00～20:00@理窓会倶楽部サロン。フォーラムの構成、開催要領を決定。事前のスカイプテスト、配布資料等について協議(9名出席、1名メッセージ参加)。

第6回幹事会

11月13日(水) 18:00～18:45@ JICA市ヶ谷ビル201AB会議室。第2回SRIDフォーラムの開催報告があり、反省点等について議論した。2020年度の開催を要望する声があった。キャリア開発事業運営委員会が4～9月の実績を報告した。(7名出席、1名スカイプ参加)。

第7回幹事会

12月9日(月) 18:00～19:30 @飯田橋「理窓会倶楽部」サロン。中沢担当幹事より、キャリア開発事業の問題点が指摘され、事業見直しの必要性について議論した(6名出席)。

第8回幹事会

1月14日(火) 18:00～18:45 @JICA 市ヶ谷 601/602 研修室。キャリア開発事業に関して、藤村幹事より実践的な研修コースに再編する案が示され、2月の幹事会で検討することにした(6名出席)。

第9回幹事会

2月12日(水) 18:00～20:00 @飯田橋「理窓会倶楽部」サロン。藤村幹事が提出したキャリア開発事業再編の素案をもとに議論した。3月の幹事会でさらに検討する(8名出席)。

第10回幹事会

3月17日(火) 18:00～20:00 @サロン・エカポール。コロナ感染予防のため「理窓会倶楽部」サロンが使用できず、藤村サロンでの開催となった。キャリア開発事業の再編、及び総会規定について協議した。4月18日に予定していた総会の延期を決めた。(3名出席、5名がスカイプ参加)。

第11回幹事会

4月14日(火) 18:00～20:00 @サロン・エカポール。総会の会場が使用できなくなったため、開催形態について議論した。総会議案書の内容をレビューし、2020年度の活動計画、及び予算案について協議した。(2名出席、8名スカイプ参加)。

懇談会

- ・ 下記5回の懇談会を開催した。参加者総数180名、うち非会員107名。懇談会のテーマは多岐に渡っており、学生から国際開発のベテランまで毎回多くの参加者があった。
- ・ 懇談会後にはフォコドルチェでネットワーク懇親会を行い、登壇者・SRID会員・非会員参加者間の交流を促進した。その結果キャリア開発塾の申込者や新規SRID会員の増加に繋がった。懇談会記録はそれぞれ直近のニュースレターに掲載した。(小林文)

第1回懇談会

講師:木村卓郎氏(元IFC職員)。テーマ:「新興国社会的インパクト投資の可能性—リターンとインパクトの両立」。参加者は37名(うち非会員20名)。

第2回懇談会

日時:7月23日(火) 19:00～21:00 会場:市ヶ谷 JICAビル 2F 大会議室
講師:公文和子氏(小児科医) テーマ:「障がいのあるケニアの子どもたちの包括的ケア—子どもたちが輝ける社会を目指して」 参加者は17名(うち非会員5名)。

第3回懇談会

日時:9月10日(火) 19:00～21:00 会場:市ヶ谷 JICAビル 202AB 会議室

講師:北丸薫子会員(内閣府専門官) テーマ:「PKOの現場から—コンゴ民主共和国東部での武装解除と人道・開発支援」 参加者は31名(うち非会員15名)。

第4回懇談会

日時:11月13日(水) 19:00~21:00 会場:市ヶ谷 JICAビル 201AB 会議室
講師:仲浩史会員(東京大学特任教授) テーマ:「世界銀行はなぜ低利で融資できるのか? 知っておきたい世界銀行財務の世界」 参加者は34名(うちスカイプ参加2名、非会員19名)。

第5回懇談会

日時:2020年1月14日(火) 19:00~21:00 会場:市ヶ谷 JICAビル 601/602 研修室
大本俊彦氏(建設契約に関わる紛争処理専門家) テーマ:「新興国建設プロジェクトの円滑な推進 —多国籍・多文化契約者間紛争の予防と解決」 参加者:25名(うち非会員15名)。

第6回懇談会(延期)

2020年3月10日(火)に予定されていた、焼家直絵 WFP 国連世界食糧計画日本事務所代表による懇談会は、コロナ感染予防のため、2020年秋以降に延期することとした。

SRID フォーラム

- ・ 3年ぶりに再開された2018年度の第1回 SRID フォーラム(旧 SRID シンポジウム)に引き続き、第2回フォーラムを2019年10月19日(土)に JICA 市ヶ谷ビル 2階大会議室で開催した。参加者27名のうち、スカイプによる参加3名(インドネシア、ベナン、アメリカ)、アフリカから ABE 留学生 OB の参加2名、外部から SRID 元学生部 OG・OB の参加2名があった。SRID 元学生部という資格で外部からの参加もあり、より開かれたものになった。(中島)
- ・ 今回は「変貌する国際協力を展望する」をテーマに、パネル1「開発と安全保障」、パネル2「民間投融資と開発」、パネル3(英語セッション)「アフリカ 開発の動向とこれから」の3パネルを設定して報告と討論を行い、終了後に大会議室でケイタリングによる懇親会を行った。神田会長がフォーラムの概要を SRID Newsletter No.947(2019年11月号)で報告した。

ニューズレター

2019年5月号 No. 492

山下道子 第46回年次総会報告
大野政義 開発協力の現場から「大洋州諸国の大国パプアニューギニア」
福田幸正 旅の千夜一夜物語・第18夜「デジタルなシンガポールでアナログな交換メモ」

2019年6月号 No. 493

阿部直美 開発の現場から「タジキスタンでビジネスインキュベータ整備を支援」
Dickson Kindole 新会員紹介「Why I Joined ABE-Initiative Program」
松田教男 旅の千夜一夜物語・第19夜「地震の発生を予知した？」

2019年8月号 No. 494

小林文彦 第1回懇談会報告「新興国社会的インパクト投資の可能性(講師は木村卓郎氏、元IFC職員)」
北丸薫子 新会員紹介「私と紛争地での仕事の出会い」
藤村建夫 旅の千夜一夜物語・第20夜「Inya Lake ホテルと濱島先生」

2019年9月号 No. 495

秋田祐一郎 第2回懇談会報告「障がいのあるケニアの子どもたちの包括的ケア—子どもたちが輝ける社会を目指して(講師は公文和子氏、小児科医)」
天谷和彦 開発協力の現場から「南アフリカの自動車産業のカイゼンを支援」

2019年10月号 No. 496

甲斐信好 自論公論「やばいぞ！日本—ルワンダに見る中国のプレゼンス」
松田教男 第3回懇談会報告「PKOの現場から—コンゴ民主共和国東部での武装解除と人道・開発支援(講師は北丸薫子会員、内閣府専門官)」

2019年11月号 No. 497

神田道男 第2回SRIDフォーラム開催報告「多様化する国際協力を展望する」

2019年12月号 No. 498

小林文彦 第4回懇談会報告「世界銀行はなぜ低利で融資できるのか？知っておきたい世界銀行財務の世界(講師は仲浩史会員、東京大学教授)」
大嶋清治 世界仮面紀行「旅と仮面(1)」

2020年2月号 No. 499

今井正幸 自論公論「日韓関係の過去、現在、未来」
小林文彦 第5回懇談会報告「新興国建設プロジェクトの円滑な推進—多国籍・多文化」

契約者間紛争の予防と解決(講師は大本俊彦氏、国際紛争仲裁人)
山下道子 2020年新年会開催報告
大嶋清治 世界仮面紀行「旅と仮面(2)」

2020年3月号 No. 500

神田道男 SRID Newsletter 500号を記念して
藤村建夫 カレント・トピック「ロヒンギャー大量難民は何故発生したか？」
福田幸正 ミャンマーからの絵葉書「ウエートレス長の卵焼き」

SRID ジャーナル

(1) 編集委員会の開催

2019年度の企画・編集は藤村建夫委員長以下、浅沼信爾、高橋一生、仲浩史、福田幸正、湊直信、山岡和純の7名が担当し、中島千秋が編集協力を務めた。編集会議を5月9日、7月31日、10月15日、12月16日の4回開催した。

(2) 第17号及び第18号の発行

第17号は「多様化するアフリカ」を特集のテーマとして7月に、また第18号は「地球資源と環境問題」を念頭において1月に発行した。

(3) 登録読者数

会員を除く現在の外部配信者数は425人と、前年度359人から66人の増加となった。2019年度の登録解除1人のほか、アドレス変更などで17人が未達である。(中島)

キャリア開発事業

(1) 運営委員会

中沢賢治委員長以下、藤村建夫、神田道男、小林文彦の4名が運営方針を決定し、事業の計画、実施、宣伝などを担当した。

(2) 事業の実施

- ・ 出張講座、向上研修、カウンセリングともに、事業は定着している(表A参照)。
- ・ 実績総括表を作成し、規約に基づいて4半期ごとに幹事会に報告した。将来的には研修コースを中心に事業の重点化を行い、それぞれの講師の個人としての活動からSRIDチームとしての活動の性格を強化することが課題となる。
- ・ 出張講座、カウンセリング活動の活発化を目指す方策として、大学のゼミや学生団体のイベントなどとの連携を図っている。

(3) 学生団体支援金

- ・ 2019 年度は助成の申請なし。2018 年度の助成対象団体として選ばれた UNION に対して、継続して活動支援、モニタリングを行った。
- ・ 2018 年度の助成金は、UNION のワークショップ開催に当たって必要なプロジェクター、アダプターなどの購入(6万円程度)、ワークショップ講師への飲料・お菓子代(1万円程度)、新入生歓迎イベントなどの諸経費(1万円程度)に使用された。2019 年 9 月、及び 2020 年 3 月に活動報告書が提出された。活発な活動が評価される。(中沢)

表 A. 2019 年度キャリア開発事業実施状況

活動内容	活動状況		支援対象
	件数	参加者数	
1. 出張講座	12	193	名古屋工業大学大学院、ノースアジア大学、JICA、東洋英和生涯学習センター、東大学生サークル UNION、他
2. 能力開発・向上研修	3	32	サセックス大留学予定者グループ、その他
3. カウンセリング	7	15	学生 11 名、社会人 4 名
4. 国際機関職員支援	3	3	世銀スタッフ他
5. 学生団体活動支援	1		学生サークル UNION を支援。2019 年 10 月と 2020 年 3 月に活動報告を受領。
6. 他の組織との連携	2		産業技術大学院大学(AIIT/ERISE)、福岡教育大付属中学同窓会

他団体との連携推進

(1) 日本評価学会

SRID の懇談会の開催案内は日本評価学会事務局を通じて会員に送った。特に 2018 年度の第 2 回懇談会「民間ビジネスを通じた SDGs 貢献とその評価」は関心が高かった。また、SRID の名前も学会内で徐々に浸透してきている。(湊)

(2) 留学生、学生

- ・ 2019 年 10 月 19 日(土)に開催された第 2 回フォーラム「変貌する国際協力を展望する」において、元 ABE Initiative 留学生で SRID 会員となった Eliud Kiprop 氏が「Can Africa Take Advantage of the Current Scramble for its Natural Resources?」と題して発表。
- ・ 同じく元 ABE Initiative 留学生で、第 1 回フォーラムで発表を行った Dickson Kindole 会員も、フォーラムに参加してコメントを述べた。終了後、両会員は懇親会に出席した。

- 2018～2019 年度に連携した ABE Initiative Program は、実施主体の JICE と窓口の JICA との連絡が密でないなど、継続的な連携が困難になっている。そのため、萩原孝一会員が所属するアフリカ協会との連携を模索している。
- 2020 年 7 月の SRID 懇談会で講師を予定している武内進一教授に、東京外国語大学へのアプローチを打診した。(小久保)

サロン

2019年度は担当幹事がミャンマー関係の仕事で多忙を極め、開催できなかった。2020年3月、4月の幹事会をサロン・エカポールで行った。(藤村)